





chair	C 背無垢タイプ 	+35	DC11 	New +30	Golondrina 	+30	hata 	+30	LIBERO 	+30	maku ペーバーコード 	New +20	MODUS dining arm 	New +20	pepe arm 	+20	pepe lounge 	+20	SINN 無垢座タイプ 	New +20	UNI-Master ペーバーコード 	+2					
	<p>New 2024年新製品です</p> <p>+20 脚長タイプのある製品です 数値は伸長寸法(mm)</p> <p>S スタッキング可能な製品です</p> <p>C 置きクッション(別売)がある製品です</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2018年 W515×D520×H745 SH420 量りがついた台形のフレームは、 量や計葉樹の床材にも最適な形。 C型の背板は無垢材と布張の2タイプ。</p>		<p>design: INODA+SVEJE 2024年 W630×D535×H730 SH430 大らかでゆったりとした座り心地。 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Jorge Herrera 2017年 W870×D780×H690 SH380 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Keishi Yoshinaga 2011年 W510×D505×H725 SH420 風を受けた旗のようなアームから背の ラインが名称の由来。無垢材を削った 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2017年 W515×D500×H725 SH430 大らかでゆったりとした座り心地。 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2021年 W420×D425×H740 SH420 宮崎椅子製作所初のペーバーコードの座。 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Kristian Vedel 2024年 W625×D505×H765 SH430 ウレタン製の背とアームは、 テーブルに掛けられて、掃除がしやすい。 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2004年 W535×D550×H770 SH435 ゆったりとした座り心地で軽量。 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2006年 W590×D620×H735 SH380 ゆったりとしたサイズで座面は低め。 木製フレーム、シート構成、張り、 さまざまな技術に挑みながら開発した製品。 包み込まれる座り心地と併まいが特徴。</p>		<p>design: Alan Hung 2024年 W550×D560×H730 SH420 長時間座っても快適なように背の角度・ 形状を追求したデザイン。座面のカーブ、 背の角度とカーブがデザインされている。</p>		<p>design: Knai Kristiansen 2023年 W595×D85×H720 SH420 使うほど感覚が和らぐペーバーコードは、 夏は涼しく冬は温かみを感じます。 椅子の年次変化で味わいが深まるところ。</p>				
azuki		+25	C caster 	+20 C	DC09 	+20	DC11 ペーバーコード 	New +30	Golondrina ottoman 	IS lounge 	LUNA 	S	menu arm 	+20	pepe arm 	+20	pepe lounge 	+20	U 	+2	UNI-Teast 						
	<p>design: Keishi Yoshinaga 2016年 W470×D485×H750 SH425 後ろ脚が張り出した緊張感のある形。 板材は薄く、棒材は細く削り込み、 最小の部材で構成した軽量な椅子。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2021年 W520×D525×H745 SH420 キャスター付きの木の椅子。動きが スムーズなキャスターを採用することで、 デスクワークの快適さを高めている。</p>		<p>design: INODA+SVEJE 2011年 W540×D510×H740 SH435 座と貫を一体化して 薄く削った座面に対し、背、アーム、 脚部は木のボリューム感たっぷり。</p>		<p>design: INODA+SVEJE 2024年 W630×D535×H730 SH415 Golondrinaの有機的な形状を引き継いで 接合部の意匠性もこの椅子の特徴。 ペーバーコードの座は、織目めの美しさと 快適な張りを追求した。</p>		<p>design: Jorge Herrera 2018年 W605×D605×H730 SH430 NCレーターの機能をフル活用して 削り出した有機的な曲線を持つアームを シングルなフレームに組み合わせている。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2014年 W735×D705×H710 SH370 NCレーターの機能をフル活用して 削り出した有機的な曲線を持つアームを シングルなフレームに組み合わせている。</p>		<p>design: Hiroshi Akutsu 2009年 W505×D485×H770 SH435 軽量化を追求することで、 構造はスタンダードに、デザインは シングルに仕上げたアームチェア。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2016年 W535×D550×H770 SH380 包み込まれるようなゆったり感が増し、 座り心地が向上。見た目にもより質感な 印象がそなわった。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2006年 W490×D520×H720 SH415 背とアームがU字型に一体化。 肘掛けの機能を失わず、アームがあくとも 横からの立ち座りがしやすい。</p>		<p>design: Knai Kristiansen 2017年 W695×D105×H70 SH380 Uシリーズのペーバーコードアーム。 1905年代オリジナルをデザインが 自らデザインし、改良タイプとなた。</p>								
azuki 無垢座タイプ		+25 C	DC10 	+30	hachi 		kuku 		LUNA 無垢座タイプ 	S	MODUS dining side 	New +20	pepe side 	+20	tonton 		UU 	+2	UNI-Res high 								
	<p>design: Keishi Yoshinaga 2014年 W470×D485×H750 SH415 丸く削ったフレーム、溝曲させて 薄く削り出した背板と座面には、 ダイナミックな木目があらわれる。</p>		<p>design: INODA+SVEJE 2012年 W570×D510×H740 SH425 薄く、細く削り出したバーツを 精密に組み立てて仕上げている。 ゆったりとしていて、快適な座り心地。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2023年 W440×D540×H770 SH415 正円をモチーフした座と背には、 緩やかな曲面加工が施され、 座り心地、背当たりを和らげている。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2005年 W495×D535×H725 SH420 接合部の加工精度を高め、接合方法を 追求した。背もたれが宙に浮いている ようなカンチレバー構造の木製椅子。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2014年 W550×D500×H720 SH435 円角もティープのデザイン。 笠木は曲げ木。丸い板座は、 座ぐりで座り心地を高めている。</p>		<p>design: Kristian Vedel 2024年 W495×D505×H765 SH430 現存するピントページを3Dスキャンし、 それを参考に木部・ウレタンの形状を 一から精密に描いて復刻を遂げた。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2023年 W620×D935×H860 SH320 無垢で構成した独自構造のフレーム。 木の肘掛けを発展させて、 子供を抱っこして揺れながらあやす イメージで開発したロッキングチェア。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2008年 W565×D530×H730 SH430 U字型フレームをつねねたデザイン。 ピローケッションは高さを自在に調整。 肘掛けを発展させて、 よりゆったりとしたアームになっている。</p>		<p>design: Knai Kristiansen 2018年 W695×D810×H960 SH430 U字型のペーバーコードアーム。 ピローケッションは高さを自在に調整。 肘掛けを発展させて、 よりゆったりとしたアームになっている。</p>										
bo		+20 C	D 		DC10 	+30	fufu 	+20	HAKU 		kuku muku 		maku 		menu side 	+20	pepe side 	+20	sail 	+35	UNI-Senior / #4110 	+5	UNI-Ottoman 				
	<p>design: Makoto Koizumi 2013年 W420×D485×H850 SH410 木をひねっているように削り出した 背柱など、現在の木工技術を生かした ラウンドフォルムのウインザーチェア。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2023年 W515×D555×H730 SH400 左右の台形フレームは、 軽量で強度に優れることが特長。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2017年 W540×D560×H740 SH430 前脚、アーム、後ろ脚がフの字で一体化。 主張を抑えた佇まい。テーブルや 部屋と調和がとりやすく、飽きのこない 「普通の上質」がデザインテーマ。</p>		<p>design: Tadashi Chiba 2012年 W450×D495×H745 SH425 主張を抑えた佇まい。テーブルや 部屋と調和がとりやすく、飽きのこない 「普通の上質」がデザインテーマ。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2006年 W495×D535×H725 SH420 くの字型のサイドフレームが名称の由来。 kukuの発売から10年後に加わった、 背がフレームと同じ無垢材のタイプ。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2021年 W420×D425×H740 SH420 宮崎椅子製作所初のオリジナル製品、 KK chairを改良復刻。腰構造を応用し、 背がフレームと同じ無垢材のタイプ。</p>		<p>design: Hiroshi Akutsu 2009年 W440×D485×H770 SH435 スタンダードな構造でバーソの細さと 薄さを追求し、指にかけて 腰を回すほど軽量化を実現。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2004年 W450×D550×H770 SH435 サイドフレームの断面は脚部先端では円、 アーム部では丸四角になり背の先端で 再び円になる特徴を持つ。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2015年 W450×D550×H780 SH415 フラットバックできるノックダウンチェア。 軽量化の狙いもあり、座と背に使用した 革が体に優しくフィットする。</p>		<p>design: Kai Kristiansen 2011年 W490×D475×H720 SH440 ゆるやかな曲線で構成された シンプルなフォルムは、さまざまな インテリアデザインと調和が図りやすい。</p>		<p>design: Knai Kristiansen 2019年 W490×D560×H380 脚部に織スチールのデザインが美しい。 UNI-Res High/UNI-Res seat面高さを セッティングでラクシィした姿勢が得られます。</p>						
C		+35	daen 	+30	DC10 メッシュタイプ 	+30	GINA 	+20	HANDY 	+30	KUMO 	New				No.42 		pepe side 背布張タイプ 	+20	SINN 	New +20	tsumuji 	+25 C	UNI-Master 	+2	UNI-Master 	
	<p>design: Makoto Koizumi 2018年 W515×D520×H745 SH420 一般的に流している 「インチ材でつくる椅子」が開発テーマ。 C型の背板が個性的な表情となっています。</p>		<p>design: Makoto Koizumi 2021年 W550×D520×H740 SH420 単一の構成断面の材料を複数合わせて、 3次元曲面のようなフォルムを構成。 独特な接合方法を開発し、強度を確保した。</p>		<p>design: INODA+SVEJE 2012年 W570×D510×H740 SH425 座に弾性のあるメッシュ素材を使用。 3次元曲面の断面を複数合わせて、 座面に仕上げている。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2009年 W540×D525×H720 SH420 1956年発表のNV31に改良を加え復刻。 座り心地、強度に優れた スタンダードデザインの椅子。</p>		<p>design: Kai Kristiansen 2014年 W500×D525×H720 SH420 抜きんとたた存在感を持つウインザーチェア。 オリジナルで開発した革をもつた リクライニング機構がそなわっている。</p>		<p>design: Anker Bak 2024年 W940×D900×H1150 SH420 抜きんとたた存在感を持つウインザーチェア。 オリジナルで開発した革をもつた リクライニング機構がそなわっている。</p>		<p>design: Kai Kristiansen 2008年 W535×D545×H750 SH460 独特のアームと傾斜した後脚が特徴。 オーリナルで開発した革をもつた リクライニング機構がそなわっている。</p>		<p>design: Kazuteru Murasawa 2016年 W535×D560×H770 SH435 背あたりが優しい背布張タイプは、 よりゆったりと食事が楽しめる。 背と座は背中や腰裏の当たりを和らげる ように繊細な形状加工を施している。</p>		<p>design: Alan Hung 2024年 W495×D445×H700 SH425 無垢材だけで構成した3本脚の椅子。 背と座は背中や腰裏の当たりを和らげる ように繊細な形状加工を施している。</p>		<p>design: Takuuya Matsuoka 2021年 W495×D485×H720 SH440 無垢材だけで構成した3本脚の椅子。 背と座は背中や腰裏の当たりを和らげる ように繊細な形状加工を施している。</p>		<p>design: Kai Kristiansen 2017年 W595×D485</p>						